

# 差別のない会社にも昇進和解を突くものにも 採用差別にも総団結で解決させよう

## 第19回定期大会開催

## 新役員体制を選出 新委員長に伊藤秀樹氏



港区新橋5-15-5  
交通ビル部  
国鉄労組東日本勝雄夫  
発行責任者 佐藤隆夫  
編集責任者 伊藤

No.632 定価 20円

2005年  
10月17日

### 第19回定期大会特集 その1

アドレス  
<http://www.e-nru.com>



### 1日目

13時30分、昨年の12月か

国労東日本本部は、第19回定期大会を9月16、17日の2日間、東京・上野の東京弥生会館にて開催し、この1年間の運動の総括をふまえ、31名の代議員による真摯な討論から、運動方針を満場一致で確立。当面する、中労委の場で行われている「差別の立証」から「差別の是正」に向けた和解協議を、「組織の強化・拡大へ！」の闘いにつなげる為に、本部・地方・職場が総団結で「反転攻勢」に立ち上げること意思統一した！

昇進差別事件の和解協議に入っている。差別の立証から具体的な是正に向けた闘いは、いよいよ重要な局面に入った。皆さんの真摯な発言から私たちが求める解決を勝ち取りたい。」とした、藤野副委員長の開会挨拶で始まった第19回東日本定期大会は、77名中76名の出席代議員・特別代議員・執行部の全員の出席を報告・確認し成立宣言をした。続いて、議事運営委員会を設置し、議長には東京地本・真柄代議員、副議長には同じく東京地本・緒方代議員を選出し議事に入った。

佐藤委員長の挨拶(別掲)は冒頭、JR福知山線脱線転覆事故で亡くなられた方に対する黙祷を全員で行い、4点にわたる挨拶を述べた。来賓の挨拶では、国労東日本本部顧問弁護士の福田弁護士、国労本部・吉田書記長、全交通共済東日本事業本部・宮坂本部長より「挨拶を頂き、国労会館・古閑、後藤両専務理事を紹介、祝電・激励のメッセージ披露を行った。議題は、小林執行委員の大会延期承認から入り、選挙管理委員会の設置、2004年度の経過報告・2005年度の運動方針(案)の提案を伊藤書記長が一括提案した。続いて、協約協定締結の提案・承認、2004年度の決算報告・同会計監査報告・同承認、2005年度予算(案)の提案、東日本本部委員及び東日本本部役員選挙告示を行った。

その後、経過に対する質疑に入り6名の代議員発言(別掲)、これに対する伊藤書記長の中間答弁で、17時30分に1日目の議事を終了し休会した。

### 機関紙表彰 大会でも力を表彰



- 甲府支部 学習会を続けて18年「永年学習会の継続」
- 雨宮義久さん 秋田総合車両センター支部年間50号以上 242号「支部日報」保坂純一さん
- 東北工務事務所分会 年間50号以上 51号「ろばた」菊田優さん
- 長野総合車両所支部 年間50号以上 50号「スクラム」下平文雄さん
- 蒲田車掌区 年間50号以上 68号「分会かべしんぶん」千田永さん
- 田町電車区 年間50号以上 50号「連結」佐藤誠さん

### 2日目

大会2日目は9時、中央労働委員会・松井労働者側委員、国労東日本顧問弁護士・海渡

来賓・メッセージ  
ありがとうございました  
来賓(挨拶・紹介順)  
東日本本部顧問弁護団  
弁護士 福田 護  
弁護士 海渡雄一  
中労委労働者委員 松井保彦  
国労本部 書記長 吉田 進  
全交通共済東日本事業本部 本部長 宮坂義久  
鉄道会館事業部 専務理事 古閑武三  
専務理事 後藤 寿

メッセージ  
国鉄闘争支援中央共闘会議 議長 中里忠仁  
東日本家族会 会長 阿部洋子  
全交通共済東北支所 副本部長 高島昭一  
国労東海本部 委員長 山梨幸夫  
国労西日本本部 委員長 上村隆志  
国労北海道本部 委員長 頼定美晴

度予算(案)質疑・承認、選挙管理委員会より東日本本部役員・東日本委員26名の無投票当選の結果を報告し、新旧役員との挨拶、スト権一票投票を75人の出席代議員全員賛成で可決、「JR東日本の『正常な労使関係の確立』を図り、組織強化・拡大に向けた特別決議(案)を小林執行委員、大会宣言(案)を佐々木婦

国労東日本本部  
第10回マラソン大会  
日時: 11月5日(土)  
場所: 皇居外周マラソンコース



# 9地本、全組合員が総団結し、 全な職場、組織の展望を築こう 0人、方針で21人が発言

## 経過討論

経過質疑は、戸田(盛岡)・橋本・渡辺(仙台)・清水(高崎)・安濃・難波・高橋満(高宮)・大角(東京)・坂本(水戸)の10名の代議員が発言された。

線路使用料改定による平成19年度問題。使用料見直しにより、最悪の場合、現行の賃金・労働条件の劣悪化になりかねない。東日本の皆さんも認識を!

岩手県並行在来線協議会と利用者アンケートに基づき要望をIGR会社、県などに要請、客貨が一体となり在来線を守る闘いに更なるご指導を!

貨物の成果主義賃金制度阻止と格差是正の闘いの強化をお願いする。

西日本の電車脱線・転覆に関して国交省が運転取り扱い、管理規定なるものを作成し乗務員の技量・技術・知識の向上を作成している模様。東日本としてどのような考えで対応していくのか?

アスベスト問題についてOBの方が健康診断を受けた、障害を認定されれば各企業・公団が責任、認定されなかった場合の費用は?

東日本の車両メンテナンス近代化第3期の闘いにおいて議事録確認がされていない何故なのか?

ダイヤ改正総合対策委員会が昨年に続き提起されているが、具体的な総括も無く、具体的な提起もされていない。

委員会の具体的な提起を!



佐藤委員長

JR福知山線事故は「鉄道事業者にとって安全は輸送業務の最大の使命である」事を痛切に感じさせる

国労東日本本部は、昨年「国労の検証と提言」を公表し、組合の立場から「会社づくり・人づくり」を提案した。そこでは、安全安定輸送、利用者へのサービスへの警鐘を乱打し、「仕事総点検運動」を土台に社員・利用者と地域が一緒になって、JR東日本の健全な会社発展を訴えた。事故を前後して「国労は信頼できる組合、会社の健全な発展に必要な組合」との認識が広がっている。

私は「検証と提言」と「仕事総点検運動」をJR東日本労使の回転軸として、また国労の未来を展望する運動として強力な推進を訴えたい。今日までのJR東日本労使の回転軸はJR東労組であるが、現在の「反弾圧」方針はJR東日本労使の回転軸にはなりえない。国労の提起こそ社員全体のアイデンティティとしての

JR福知山線事故は

「鉄道事業者にとって安全は輸送業務の最大の使命である」事を痛切に感じさせる

この流れの中で「昇進事件を含む全ての事件」の和

## 委員長挨拶 全面解決へ 総団結・総決起を

中労委における和解協議は、紆余曲折を経て17年度昇進試験第一次結果を踏まえた上で再開された。国労は試験結果に和解協議の成果がどう反映され、会社側からいかなるメッセージが寄せられるのかを注視してきた。職場からの報告では、十分に変化を感じ取れる状況であり、9月7日の「昇進弁護団・地方代表者・関係支部代表者会議」でも、「明確なメッセージがあった」と判断することができた。会議の結論をもって

一方、鉄建公団訴訟判決が9月15日に下された。判決は不採用事件の今後に大きく影響を及ぼすものであり、好い点は政治解決に生かし、悪い判決はその影響を最小限に食い止め、判決を契機に36闘争団の団結と国労組織の総団結をはからねばならない。また総選挙後の政局の現実を踏まえ、政治解決環境づくりに全力を上げていかなければならない。一つひとつ着実に環境を整え、全面解決への総団結・総決起を訴える。

## 鉄道の「安全・安定輸送」、労働条件を改善するため 職場から仕事総点検運動を巻き起こそう!

お願いしたい。

教宣部活動の底上げを図る目的で各地方担当者交流会の目的意識的に開催を!同時に本部のホームページ活用を充実させ、常に新しい情報の掲載に努めるよう本部・地方が互いに努力するよう要請する。

場では

- 野)・相川政美(東京)・横塚正雄(高崎)・鈴木伸一(東京)・神谷長一(秋田)・鈴木敏(東京)・安田正浩(千葉)・島田昇(東京)・板倉昌吾(東京)・藤井明人(新潟)・岸本靖夫(東京)・菊池要悦(盛岡)・車塚豊(東京)・松田恭明(東京)

## 方針討論

者で、会社は顔色をうかがっているのが現状。正常な労使関係は対東労組でも求められ、今後、国労でも主任で頑張れる条件にならざる。



真剣にメモをとる代議員

業務上の運転事故では、罰金は本人、通院は無給だ。業務上の運転事故で本人負担を減らすよう要求してほ

分など、メンテ体制の見直しに取り組んでほしい。  
アスベスト  
97年に41歳の方が中皮腫で亡くなっており関心が高い。車体にアスベストを発見したが、会社は専門家の対応をの声を聞かずに下請けの方にスプレーでの凝固作業をさせている。  
貨物駅で連結作業をしているた退職者からの不安があると、の連絡が発端で鉄道運輸機構への業務災害申請となった。早期認定を勝ち取る取り組みを要請したい。また、JRと鉄道運輸機構での補償金額の問題もあり、上積補償にも関心を持ってもらいたい。

手当



# 国労東日本 差別のない安全 経過で1



活発に手を上げる代議員



3年の延長発  
生もさ  
れてい  
る。最  
長1年  
を限度  
とする  
文書化  
と再延  
長をさ  
せない  
取組み

山崎公久(東京)・阿部仁(仙台)・水越孔智(東京)・山田博樹(東京)・菊池忠志(水戸)・佐藤治(東京)・小林良宏(盛岡)の21名の代議員が発言しました。

## 労働委員会・裁判

金銭補償に止まらず、職場から差別をなくす試験の公正・公平性の確保をめざして進めたい。

当事者の納得のいく解決が問われている。解決したが職場に闘う組合がなかったとならない。闘いを止めない立場が必要だ。

和解は一步間違えると不団結となる。組合員の考えの把握に努め、納得できる和解、組織展望をもてる状況をつくってほしい。

## 経過集約

並行在来線と貨物のレール使用料の問題。今本部が進めているJR20年検証委員会の中のポイントでもある。国土交通省に対する政策として進めていく。

事故原因の追求について、会社の動向を含めて報告をいただきたい。

西日本の事故はJRだけの問題ではなく、本部・交通労協と連携を図り議論を進めていく。

車両メンテナンスの議事録については行うという方向で会社には求めているが、現在も平行線である。

ダイヤ改正対策委員会の提起は、本社交渉の

強化も含めて地方交渉をどう強化していくのか、具体的に労働条件改善に結びつける事が任務。

配転問題で不当な事実を認識はしている。地方と連携して一つ一つ取り組んで行きたい。

シニア雇用の関係について、交渉では法人格の違う中で寮に入るの困難であるというのが本社見解。しかし、首都圏と地方の格差など、協定化を踏まえて問題点の改善に取り組みたい。

昇進試験の和解協議について、第一次の合否結果や説明の仕方を含めて職場・地域によってアンバランスが生じていることは十分承知している。

そういう中であつても、指導職で2.5倍、主任職で3倍の方が合格され、量的変化は生まれている。

出向期間延長問題については、本社・本部間の基本的な整理は1年。地方によっては差が生じていることも事実であり、東日本で預かり対策をとりたい。

策の転換、正常な労使関係、差別・不公平感の解消、国鉄闘争の早期解決。その停滞は、この位置付けを失わせ、差別を持続させ、組織拡大の障害を残すことになる。臆することなく前に進むべきだ。

## 労働条件・安全

問題の集中する大駅・ターミナル駅の実態調査を。女性社員・メンタルヘルスなど労安法・労基法を活用した取組みを。

職場の問題を取り上げてきた。やらなければ何も変わらない。他労組の人から情報提供や相談を持ち込まれる。いまは国労が職場の中心に座っているといっても過言でない。

地震・架線支障・台風などで輸送混乱。保守・点検要員が確保できず、駅・乗務員はお客の苦情などで食事・休養もとれない。会社の言う安全は口先だけ。人も金も惜しまない安全対策を。

IP電話は広域化と夜間の集中、話し中による苦情の中で、業務量はテレホンセンタの1.5倍といわれ、耳の不調を訴える人もいる。首都圏と地方で受け止め方の温度差があるが、改善に向けて取り組んでほしい。

出向協定無協定の中で会社の都合による一方的出向延長の実態にある。並行在来線の子会社化の出向拡大もある。



安全問題の本社交渉が進まないとの報告あつた。事故が相次いでおり、早急な対策が必要で、実態に基づく早急な交渉を。

## 不採用

9・15判決は、国労が政治解決にこだわったことが影響した。闘争団の闘いが解決の道筋であり、国労は闘いに立ち上がるべきだ。

東京北区の自治体決議は、国鉄闘争停滞の中で大きな成果。ILO勧告の力を改めて確信した。

本部分針を受けて何ができるのかの議論し、県内労組との北海道闘争団交流、地元国会議員要請など取り組んだ。団体署名では、労組役員若返りなどで国鉄闘争の風化は否めず減少している。また、連合加盟組合との関係もある。実態に即した対応と指導をしてほしい。

## メンテ・出向

メンテ出向の戻りは、P会社の社員養成の実態を示した。安全・安定輸送、技術継承はP会社を含めた余裕のある職場づくりが必要だ。出向連と連携して「仕事総点検」の強化を。

出向からの戻りで、P会社では欠員状態となり、助勤や遠距離通勤で対応している。JR復帰希望者を戻す闘い、JR同様の労働条件、直外区

# 職場の問題に国労が中心となって取り組もう

高熱下の作業や汚物処理、特殊性の高い作業を現実に行っている。職場からもしつかり声を出していきたい。廃止された特殊溶接手当は、作業の特殊性や劣悪な労働実態を踏まえて長年の要求で実現した。劣悪さを認めたくえで会社が言ってきたローテーションや溶接技術者養成が反故にされてきた中で年間6万円の減収となっている。手当廃止の見直しを求めたい

## 東日本本部委員

- 盛岡地本 笹山賀庸
- 小林良宏
- 菊池要悦
- 神谷長一
- 武田昌仙
- 原子清孝
- 藤井明人
- 横塚正雄
- 横田秀行
- 菊池忠志
- 清水洋
- 安田正浩
- 粕尾彰
- 安濃敏雄
- 杉本智
- 山本恭志
- 芳賀康
- 車塚豊
- 小桜隆次
- 緒方博
- 難波訓吉
- 水越孔智
- 武田英雄
- 小森充
- 佐藤治
- 花田孝
- 大宮支部
- 宇都宮支部
- 大井工場支部
- 八王子支部
- 国府津支部
- 横濱支部
- 上野支部
- 新橋支部
- 東京地本
- 長野地本
- 千葉地本
- 水戸地本
- 新葉地本
- 高崎地本
- 新潟地本
- 秋田地本
- 仙台地本



書記長集約

9・15判決を生かし、国労基本要請で団結しよう  
規制緩和が安全軽視の要因  
国労の展望を切り開くための一歩が昇進和解



伊藤書記長

アスベスト問題

国鉄時代を含め、多くの方々に不安感。JR全体の特殊健康診断延伸を含め、慎重に取り扱う。東日本でも対策委員会を設置し本部主催のアスベストの学習会で理解を深める。

直外区分の関係

自動車の補償問題については団交で突破し切れていない。工務協からの意見に基づき引き続き認識を持って対処する。

IP電話の問題

9月27日の業長会議で議題として取り組む。実態把握を会議に持ち寄ってもらいたい。

手当の関係

方針上明記しているように、要求を職場の署名活動と結びつけ、秋季・年末の柱の一つとして取り組む。

JR不採用事件の早期解決を目指す闘い

9・15判決から「生かすものは生かしながら」が本部の考え方。国労基本要請に基づき解決を目指し団結するかが最大の課題。特に総選挙結果を踏まえ、政治解決が大変厳しい情勢。ILO勧告に基づき解決を進めるため、各地方自治体決議、意見書の採択に全力を挙げていただきたい。同時に大衆行動でもキャラバン行動等の成果踏まえ、各労

組・団体の支援・決議など、JR不採用事件を風化させないためにも大会の総意で地域・職場の中で運動を進めていく。物資販売の統一は早期に必要な課題。国労が二分しているようなイメージを与えないことはマイナスであり、統一のため東日本本部も先頭に立ちたい。

労働条件改善と安全・安定輸送の確立

尼崎脱線事故調査の中間発表がされたが、一〇キロ出した運転士が悪いがごくく報告をされている。しかし、今日の輸送産業が規制緩和され、安全が軽視されてきたことが要因の一つだと考えている。車両検査や構造、線路の設備の点検等、様々な安全が軽視されている。それがこのJR職場でも共通する状況。

出向者問題

出向者の労働条件に関する指摘が多くされている。引き続き重要な課題として一つ一つ改善させていく。

二〇〇六年春闘

JR貨物の「新しい人事・賃金制度」の動向が重要な時期。本部、貨物協とも連携を図りながら、「仕事総点検運動」を含めた客貨一体の運動として進めていく。具体的な部分については委員会で決定。

組織強化・拡大

この一年で、13名が国労に加入・復帰された。今まだ「おれたちは差別されているから、誘うのはかわいそうだ」

という、私たち自身の意識が壁であった。拡大の教訓として、昇進等の問題と合わせ「国労に入って頑張ろうよ」と我々がしなければならぬし、環境づくりをどうするか。職場での運動の活性化、闘いが必要。

労働委員会、裁判闘争

昇進事件についてのご意見をいただいた。追加方針で触れたように、和解が進んだからといってすぐ横に並ぶわけでもない。平成組合員に自信を持って「国労に加入しよう」という組織の自信に繋げる一歩である。裁判、労働委員会

で勝っても、組織がなければ勝利とはいえない。次への展望に進むための一歩が昇進事件の和解。国労運動の正しさと、仲間を大事にする国労のよさを常に引き継いでいくためにも、追加方針の中で、昇進和解を進めるポイントとして4点を確認。節目、節目で地方の代表者、関係支部の代表者、弁護団とも公式・非公式に相談し慎重に対応してきた。今後もその姿勢は変わるわけではなく、判断を求める段階では皆さんにも明らかにしながら、本大会で確認をいただきたい。

動議の取り扱い

私どもの方針と大きな乖離があるとは思わない。誤解のない形で団結を深めるようお願いします。

新役員紹介

新執行部が発足しました。職場の労働条件改善、輸送の安全、差別のない会社・職場とするために、一丸となって取り組みます。



書記長 高野苗実

企画・業務部長、全国戦術委員、全国組織検討委員、社員共済会経協幹事、簡易苦情処理幹事



副執行委員長 藤野節

組織部長・主任 交渉委員



執行委員長 伊藤秀樹

総括、総務、政治共闘、国労議員団、会館、交通労協、家族会、会社別協議会



執行委員 武田幸喜

財政部長 組織・青年担当



執行委員 伊藤隆夫

教宣部長、企画担当 交渉委員



執行委員 山根主吉

法・責対部長 簡易苦情処理幹事



婦人部長 佐々木久恵



特別執行委員 町田建三

貨物担当



執行委員 樋口孝重

調査部長・教宣担当



監査員 釘持英雄



監査員 松本正吉



監査員 古川数行



青年部長 森岡英夫



小林隆前執行委員

03年第17回大会から、組織・教宣担当執行委員を1期2年



中田行雄前監査員

01年第15回大会から、会計監査員を2期4年



佐藤勝雄前委員長

97年第11回大会から書記長を3期6年、03年第17回大会から委員長を1期2年



須藤芳文前監査員

93年第7回大会から、会計監査員を6期12年

退任された役員  
どうもありがとうございました

編集後記と案内

大会特集として、4ページで編集しました。都合上代議員の発言等も、課題別に整理させていただきましたが、詳細、全文についてはホームページを参照してください。 アドレス <http://www.e-nru.com>

僕のがん保険は、病気もケガも保障する。しかも、保障料が一生上らない。保障が一生つく。がん保険を選ぶなら、アメリカンファミリーです。

健康応援団MAX 終身タイプ  
21世紀がん保険 + 特約MAX

「がん」の生涯保障 <21世紀がん保険>

BESTプラン・1倍	ご本人の保障
初めて診断されたとき	100万円 (一時金として) がんの場合 10万円 上段内断生の場合
入院したとき	1日につき 10,000円
手術を受けたとき	1回につき 20万円
高度先進医療を受けたとき	技術料に応じて 6~140万円
通院したとき	1日につき 5,000円
がんで死亡したとき	10万円

・保険期間:終身・契約年齢:満3歳~満80歳・解約払戻金0コース  
<引受保険会社>  
引信があります。私の医療保険。

AFLAC アメリカンファミリー生命  
東京第三営業本部 第三支社 ☎03-3344-1889  
〒163-0456 新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル

がん以外の「病気・ケガ」の生涯保障 <特約MAX21終身タイプ>

ケガの保障は90歳までとなります。	ご本人の保障 [本人型]
病気で入院したとき	1日につき 5,000円 (1日目から)
ケガで入院したとき	1回につき(手術の種類により) 5・10・20万円

・保険期間:終身(ケガの保障は90歳までとなります)・疾病・災害入院給付金日額5千円  
・契約年齢:満3歳~満80歳(本人型)・1回の入院については124日まで保障 ※日帰り入院(1日入院)とは、入院日=退院日の入院で、入院料の支払いの有無で、入院であるかどうか判定されます。  
◎詳細はパンフレット、ご契約のしおり・約款をご覧ください。

■募集代理店  
アベニール 株式会社  
TEL 03-3437-6810 FAX 03-3437-6822  
〒105-0004 港区新橋5-15-5 交通ビル3F